

映画の小箱

しがない掃除夫が発作的に起こした社長令嬢誘拐。だが、身代金要求は奇妙な方向へと展開していく…。

『普通じゃない』 掃除夫と社長令嬢の 思わぬ恋の展開

金丸弘美=文
text by Hiromi Kanamaru

恋はいつも、ときめきとあやうさ、甘さと辛さ、歓喜と煩悶、出会いとすれ違いなど、相反するさまざまな要素をあわせもっている。だからこそ素敵で、ドラマチックで、人はひかれるのに違いない。どんなに恋が描かれようと、同じものは一つもない。星のきらめきが、遠大な宇宙に数えきれないほどあるように、恋人たちの恋の輝きも無限にある。そして、恋は誰のものでもなく、恋人たちそのものの、そこだけの輝きなのだ。

恋は、どこから降ってくるのだろうか。突然にやってくる。本当に恋は予想もつかない。神の行為なのか、天使のはからいなのか、どうしたって考えてみたくなる。なぜって、恋はしたいときにできるものでない。まったく恋に縁がなくとも、ある時、恋に憑かれたりもするのだから。

この物語は、嘘かもしれないし、本当かもしれない。ただ間違いなく思うのは、恋は夢見る力を持っているということだ。

白が基調になった部屋、白い服を着た人々、どこかの医療施設なのか研究所なのか。そこでは、二人の男女が上司らしい男に呼びつけられる。そしてある二人を結びつける話がさ

れる。その二人とは、金持ちの娘と、しがない掃除夫の男。

どうやら白い部屋は天界で、呼ばれた男女は二流の天使。彼らの使命は、地上の、どうみても結びつかない二人を結びつけること。そうしないと、二人は天国で住むことを許されないらしい。こうして長身のジャクソン(デロイ・リンドー)と、ブロンドヘアのオライリー(ホリー・ハンター)は、地上に向かうことになる。

一人の女性が優雅にプールを泳ぐ。プールからあがると、執事らしい男の頭にリングを載せて銃で撃つ。彼女セリーン(キヤメロン・ディアス)にとつては、すべてが退屈。彼女には、求婚したいという歯科医で、彼女の父もすすめるエリオット(スタンリー・トゥッチ)がいるが、まったく興味なし。言い寄る彼に、セリーンは、頭にリングをよと要求し、銃で撃った瞬間、彼が動いて怪我をさせ、大騒ぎになる。セリーンの父親で会社社長ナヴィル(イアン・ホルム)の部屋に彼女は呼ばれて、手ひどく怒られる。しかし、セリーンはふてくされたままだ。

一方、ナヴィル社長の会社に雇われている





掃除夫で、小説家を目指すというロボット(ユアン・マクレガー)は、掃除夫仲間と小説の内容を夢中で話しているが、あまりに筋が平凡で陳腐なので、だれにもうけない。そんな彼のところへ、解雇の知らせがくる。会社が掃除ロボットを導入したというのだ。怒り心頭したロボットは、社長室に乱入。ロボットを叩きつけて抗議する。

ところが逆に社長に銃を突きつけられ、警備員がやってきて、すぐにも逮捕という事態に。退屈していたセリーンはロボットを手助けし、彼は、彼女を人質にして脱出に成功。だが、一瞬にして誘拐犯になってしまう。

ロボットは、とんでもない女性を誘拐してしまったことに気づく。セリーンはロボット

に、「身代金要求の電話がなっていない」と、ロボットを罵倒。自ら電話の掛け方を指導。「素早く、間を与えず、こっちの要求だけ言って切るのよ!」。もうどちらが誘拐犯だかわからない。

おまけに、身代金要求の手紙を書くとロボットに迫り、なんと自らの腕を切って、血文字でないと迫力なしと言われ、ロボットは卒倒してしまう。「やりすぎだ」というロボットに、「あんた誘拐犯なんですよ。ちゃんとやんなよ。あたしは何度か誘拐されて、誘拐がどんなものか知ってるのよ!」と言われて、従うはめに。こうして、人質指導による、なんとも頼りない誘拐が始まったのだ。

社長ナヴィルが娘を取り戻すために雇ったのが、二人の賞金稼ぎで、実は天界からやってきた天使。天使はなんとかセリーンとロボットを結びつけようと、二人に近づくが、やることすべて裏目に展開してしまう。

キュートで思い切りのいいセリーンに、ロボットも天使も振り回されてしまう。だが、セリーンは純朴なロボットに、ロボットは大胆なセリーンにひかれ始めるのだ。

コミカルで可愛らしく、ロマンチックでハード。恋の思わぬ展開に引きつけられ、笑ってしまう。恋ってやっぱり素敵だと思わせる、楽しさが一杯に詰まった、これは宝箱だ。♪

『普通じゃない』A LIFE LESS ORDINARY

監督=ダニー・ボイル

出演=ユアン・マクレガー/キヤメロン・ディアス/ホリー・ハンター/デルロイ・リンドー/イアン・ホルム

(20世紀フォックス配給 7月公開予定)